

令和2年度 第3回
学校関係者評価委員会 信頼される鹿商のための委員会

1 日 時

令和3年2月15日（月） 10:00～11:30

2 場 所

本校管理棟2階 資料室

3 出席者

学校関係者評価委員（6名）

私立大学講師，元幼稚園園長，前町内会長（下宿主），公立中学校長，同窓会副会長，PTA 副会長
校内委員（10名）

校長，教頭2名，事務長，教務主任，生徒指導部副主任，進路指導主任，保健主任，商業科主任，
教務部副主任（記録係）

4 会 順

(1) 教頭挨拶

(2) 各部等の年度反省と今後の課題

ア 教務部

イ 生徒指導部

ウ 進路指導部

エ 保健部

オ 商業科

(3) 学校評価アンケート結果報告

5 質疑応答，提言録

- ・ 「地域との連携を深める」項目について，県民週間での取組内容と，来校者数について伺いたい。
 - 5名程度が来校した。コロナ関連でなかなか来校しにくい状況だったのではないかと。
 - ミニコンサートでは，来校者名簿に記載されていなかったため正確な数字は把握できていないが，多くの来校者があった。
- ・ 休校要請で苦労が多かったのではないかと。そのような状況下で保護者の学校評価アンケートの評価が高かった理由をどのように考えるか。
 - 新型コロナウイルス感染対策は，保護者や関係機関と連携して取り組んできたことを評価していただいたのではないかと。
 - 企業の情報収集や，新大学入試制度への対応を評価していただいたのではないかと。行事が少なかったため，進路に向けてじっくり取り組ませることができた。
 - 家庭の協力も得なければ感染予防は十分にできない。休校を受けて学校行事を精選し，授業時間を確保し学力向上に努めてきた。

- ・ ホームページの充実について、どのように取り組んでいくのか。例えば、部活動で活躍した生徒をホームページ等に掲載してはどうか。学校の自慢できることをどんどん掲載した方がよい。

→ 部活動で指導力を発揮している教員も多い。指導実績のある教員もホームページで紹介したい。また、文化系の部活動の取組や本校の施設の内容もホームページ等に掲載し、アピールしたい。併せて今後もブログ等で情報発信したい。
- ・ インターンシップに代わる「卒業生によるキャリア教育講座」について内容はどのようなものか。国公立や私立大学、宮之城高等技術専門校に進学したのはなぜか。

→ 「卒業生によるキャリア教育講座」は自分のこととして進路を考える機会とすることができた。教員がインタビュー形式で質問する形式をとったが、生徒は熱心に聞いていたようだ。大学進学は部活動の実績だけではなく、資格取得や小論文対策にしっかり取り組んだ。部活動をしていた生徒は集中力や忍耐力があり、課題にしっかり取り組んでくれた。宮之城高等技術専門校には将来製造業に携わりたい生徒が進学するが、学校からの情報提供が進学につながった。
- ・ 東洋大学との連携はどのような取組か。

→ 東洋大学からゼミの活動の一環で調査したいとの依頼があり、連携することになった。それぞれの視点で鹿児島島の観光が活性化するかを検討し、リモートで発表した。また、東洋大学は他県の学校とも連携して活動している。こういった連携した活動により、将来的には進学に結び付けられたらと考えている。
- ・ 職員の自己評価の値が低かったことについてどのように考えているか。

→ 自己評価の結果については後日教員に示す予定であり、数値が低い項目については生徒の評価と関連しているので改善策を検討していきたい。
- ・ 寮、下宿に先生が訪問し、連携を密にすべきではないか。

→ 今後訪問するよう計画する。
- ・ 今の子どもたちは考えることをしないのではないか。下宿では、新聞を読ませて意見を発表させる取組をしている。

→ 企業の採用試験でも想定外の質問が増えてきている。考え、自分の言葉で説明できる習慣を、日頃の授業の中でも育成する必要がある。
- ・ 中学3年生ではなく中学1年生に学校紹介をしたらどうか。さらに小学生にも出前授業を行うことで、将来的に進学希望者が増えるのではないか。

→ 本年度は依頼により中学2年生を対象に学校紹介を行った。本校からも中学3年生以外にも積極的にアピールしていった。
- ・ 不登校の生徒はどのくらいいるのか。いじめが起因している場合は早めに対応してほしい。ホームページが以前に比べ充実している。楽しみにしている。

→ 家庭環境の変化や、学校生活になじめず不登校になっている。いじめに起因する不登校は現在のところない。
- ・ 本校生徒がゴミ出しをしていたら手伝ってくれたと、お礼の連絡を下宿先にいただいた。ちょっとした行動が感動を生む。
- ・ 鹿商の部活動をアピールするために、レギュラーではない生徒にも焦点を当てるべきだ。また顧問の指導理念も発信することで、レベルが高いという理由で鹿商への進学を躊躇している生徒も、進学を希望するかもしれない。

- コロナ禍での卒業生へのアフターケアが必要であると思う。OBを中心に支援してほしい。